

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100087		
法人名	医療法人 陽心会		
事業所名	グループホーム大道が丘		
所在地	那覇市大道94-3-3階		
自己評価作成日	令和4年11月24日	評価結果市町村受理日	令和5年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4790100087-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階
訪問調査日	令和 5年 1月 24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者本人が家庭的な環境でできる範囲内でご飯作りや配膳、後片付け、掃除などの活動を行っている。
自分らしさに重点を置きご本人が過ごしやすい雰囲気大切にまた自信をもって生活できるよう配慮し
集団支援ではなく一人ひとりの環境や要望など鑑み尊重していると同時にできるだけ身体機能の低下
しないよう
レクや体操、社会参加に力を入れ職員全体で考え支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は医療法人を母体に、医療施設、介護施設等を複数運営しており、介護・医療連携に優れた環境にある。感染症の予防や対策に職員全体が高い意識を持ちながら感染対策に取り組んでいる。事業所は4階建て複合施設として設置され、1階は地域交流室、2階が小規模多機能施設。3、4階にグループホームが併設し、事業所は3階にある。天気の良い日には屋上で日光浴を楽しむ時間をつくり、モノレールが走る風景を楽しんでいる。事業所は3食とも介護職員が、利用者が好む食事を考えながら調理をし、野菜の下ごしらえなども一緒に手伝いながら楽しく、美味しい食事の提供に取り組んでいる。事業所は利用者、ご家族へ連絡、報告を定期的に行い、良好な関係づくりに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りの後理念を唱和し職員全体で周知徹底している。	理念は開設時に作成した基本理念と、10の事業方針がある。年度毎に今年の改善したい重点事項を定め、申し送りの後に全員で唱和し、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今までの関係が途切れることなく配慮している しかし地域交流としてはコロナの影響により制限され 充分ではない。	コロナ禍ではあるが感染対策をしながら、近隣を散歩し、近所にある通い慣れた市場や美容室へ通い、挨拶を交わす機会をつくっている。建物の1階にある地域交流室の使用については、地域の方々からの問い合わせがあるが、現在は新型コロナウイルス感染拡大防止のため使用できない旨を伝えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により地域の皆様との交流は制限されていたがコロナ対策状況など資料を地域の方々に配布させていただきました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により職員のみで行い特にコロナ感染対策に 力を入れ職員全体取り組み事業所内での2次感染を防ぐことができた。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、文書により運営状況を報告し、FAXや電話等の方法で回答や助言を頂きながら会議を実施している。議事録や外部評価の結果は、玄関にファイルで公表している。議事録内容は各委員からの意見や課題について、より詳しい記録を今後期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議についての開催についてなどにとどまり 接客的な協力関係としては充分ではなかった。	管理者や計画作成担当者は、必要毎に行政の窓口を訪れ、各担当職員や、生活保護受給者の家賃等の限額 についても適時相談を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度の身体拘束委員会だけではなく内部研修や利用者の状況によってはすぐに会議を行い対処し 身体拘束を行わないよう取り組むことができている。	身体拘束等のマニュアルが整備され、現在、身体拘束は行っていない。法人のリスクマネジメント委員会や事業所内の検討委員会が毎月開催されており、その内容は運営推進会議で報告している。研修会や勉強会を行い、全職員で共有している。今後、運営推進会議等での第三者の委員の意見も含めた助言を求めるよう、議事録の工夫に期待したい。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新入職員には指導、アドバイスなどその場で行うようにし暴言、虐待の前に改善できるよう努めている 常に利用者の立場に立ち支援を行うよう努力している。	虐待防止に関する指針、マニュアルは整備されている。職員の不適切なケアについて会議の場で、振り返ったり、ケア場面でスタッフ間で気づいた場合は、お互いに声掛けするよう取り組んでいる。管理者は、他の利用者の介護に集中するあまり利用者の呼びかけに気が付かなかった職員へ、その場で声をかけるなど現場での徹底に気を配っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて行い理解を深め活用できるよう努力している。環境によって必要性が感じられれば すぐに会議等を行う準備ができている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時はゆっくりと丁寧に説明している しかし気になることがあればなんでもいつでもご連絡いただけるよう伝えています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍により面会が制限されているため 利用者の近状報告などご家族へ電話にて行っている その際には支援の要望などお聞きし支援につなげ 喜んでいただくよう努力している。	利用者の意見や要望は日々のケアの中で意識して聞くようにしている。現在は感染予防で面会できない状況もあり、毎月2回は電話連絡にて介護支援の経過報告を行い、運営に関する意見がないかを聞くようにしている。家族からの要望は、ヤクルトの配達や、経済新聞の配達をして欲しいなどの要望にも柔軟に応えている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや会議だけではなく職員個人に声掛けし意見を聞くよう努めている。	管理者は、職員が働きやすい環境を作ることに心がけており、各職員からの勤務シフトの変更の要望にも柔軟に調整を図っている。日々の業務のなかで職員からでた意見や要望もきちんと聞けるよう対応している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人はハラスメン等の対応の為職員専用の窓口を設け働きやすい職場作りに努めています。	事業所は就業規則が整備され、ファイルは職員が手に取りやすい場所へ配置している。ハラスメントに関する事項も明記されている。年間の研修計画を立案し、法令で位置づける内容に加え、取り組む必要性の高いプログラム内容を組み立て実施している。管理者は職員へ資格取得に向け個別に声掛けを行っており、職員がキャリアアップできるよう取り組んでいる。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士などの資格取得に向け学習する機会を設けスキルアップしやすい環境作りに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍においても電話などでアドバイスし合い交流を重ねサービス向上に努めることができた。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規で利用者には基本情報だけではなく本人のことが理解でき早くなじんでもらえるよう丁寧に支援を行うよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス検討の時点から丁寧に時間をかけ説明や話し合いを行い安心していただけるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家庭での暮らし方など職員全体で把握し通所だけではなく必要な支援を検討し多様なサービスを提供できている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人の尊厳を大切にできるだけ本人のしたいこと優先に支援するよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員とご家族で協力し合い情報共有し本人の支援に役立て三者の信頼関係を築いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容室、診療所、馴染の商店などできるだけ利用し喜んでいただいている。	家族と協力し、入所前より付き合いのある馴染みの介護タクシーを手配することで、利用者は運転手との会話を楽しんでいる。利用者のなかには、馴染みの美容室を利用したり、入所前から通院していたクリニックへの受診を希望している方においても、家族や職員が調整対応し、関係の継続に努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用中は常に見守り利用者同士気が合い馴染んでいただくように心がけているが関係が良好ではないと感じたときは席替えなど行い円満に過ごせるよう努力している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了時には専門的なことなどいつでも支援いたします何でもご相談くださいと伝え完結しても電話にて状況報告いただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向と健全な暮らし方を最優先に支援を行い 困難が感じられれば職員全体で考え良い支援を行えるよう努力している。	毎日のケアのなかで、利用者の気持ちや意向に努め、意思疎通が困難な場合には表情を観察したり、アセスメントの際には、家族より生活歴をお聞きする等、本人の意向を知る為のアセスメントに努めている。イベント時にお酒を飲みたい場合はノンアルコールビールを提供したり、好きな芸能が聞きたい方にはYouTube動画等で楽しんで観賞してもらうなどの支援を個別に行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始から職員全体で基本情報やコミュニケーションの中で見つけた生活歴など周知し支援に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの持っている力を理解、周知、活用し生活の中ではもちろん体操やレクなどで発揮できるように努めている		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員もケアマネも毎月モニタリングを実施し新たな課題がないか把握しご家族へ聞き取りを行い現状に適した介護計画を作成している。	計画担当者は年に1回アセスメントを行い、3か月毎にモニタリングを実施している。基本的には、長期目標12か月、短期目標6か月と設定している。心身の状態変化については、記録や毎月のモニタリング、利用者、家族からの声を聞きながら、チームでモニタリングを行っている。新たな課題や、変化があれば、適時介護計画の変更を行うよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の情報は毎朝の申し送りや排せつ記録や日報の情報をなどを共有し介護計画の見直しや実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本人やご家族の環境など鑑み要望などに応えるよう通所、訪問、宿泊など柔軟に対応できている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により地域資源の活用は十分ではなかったが利用者一人ひとりが職員、家族との連携により健康で元気に過ごすことができている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所としてはできるだけ今までのかかりつけ医を替えることなく関係を続けてもらうことを優先し本人にとって優良な医療を受けることができるよう努めている。	本人や家族の希望を伺い、出来るだけ今までのかかりつけ医を継続してもらうよう働きかけている。現在、2人は家族対応で以前のかかりつけ医を受診し、7人が協力医の訪問診療を受診している。他科受診などで通院する際に、馴染みの介護タクシーを利用し親しいドライバーとの関係を継続している方もいる。訪問診療の医師と常に連絡が取れ医療連携が取れている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と介護職員は朝の申し送りだけではなく常に情報発信し情報共有し適切な受信など迅速に行うことができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	大道中央病院と連携し入院できている。入院後は事業所、病院、家族と情報共有し適切な治療を受け早期退院に努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス契約時に終末期についての方針などご家族と職員で周知している。体調の変化など含めた状況報告など常に行い今後のサービスについて話し合いができています。	入居時に「看取り及び重度化に関する方針」について丁寧に本人と家族に説明し、事業所においての医療行為が出来ない事を説明し同意を得ている。利用者の状態変化に対応して、訪問診療や訪問看護の医療連携体制を整え、医療機関への転院のケースなど本人、家族に寄り添った支援を実践している。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のついて常に話し合い資料を確認し訓練を行い迅速で適切な対応ができるよう努めている。	事故発生、急変対応マニュアルを整備し、訓練を定期的に行い実践できるように取り組んでいる。ヒヤリハット報告については簿冊されているが、件数が少なく管理者は職員へ小さな事でも記録するように働きかけている。ヒヤリハット報告をもとに再発防止について検討会議を行ない、職員間の周知を図っている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	防火訓練を夜間対応と日中対応で年2回行っている 以前は地域の方がに参加していただき避難訓練や消火器の扱いなど行っていたが新型コロナの影響の為職員のみ参加となっている 感染症について会議やミーティングなどマニュアルの再確認を行っている。	年2回の消防訓練を昼夜想定で行っている。1回目の訓練の際に反省点となった内線での連絡体制の不備は、2回目では改善され反省が活かされている。コロナ禍の中、感染症対策にも力を入れ、感染症対策マニュアルを整備し、夜勤者もマスクとフェイスシールドを欠かさず装着する事により、利用者への感染が全く無い状態を継続している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修にて権利擁護やプライバシーなど学習し 支援につなげ一人ひとりの利用者を尊重することができている。	年間計画の勉強会でも「権利擁護」について取り上げ、担当者が事前に下調べの上、司会進行を努め、他の職員と一緒に更に学びにつなげている。管理者は、職員に対して親しさの中にも尊厳を損なわないよう、声掛けは〇〇さんと呼びかけるように指導している。プライバシーに関わる個人情報保護規定などは、運営規定に謳われ、掲示されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から食事や衣類など好みは気分に合わせ職員ではなく本人に決めていただくよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく利用者優先に重きを置き支援を行っている。その日の気分によって変わる意向を把握できるよう丁寧なコミュニケーションに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後などの着替えは本人に選択肢をあたえ選んでもらっている 職員と家族とで連携し新しい洋服を着ていただく機会を設けている。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナの影響により職員と利用者が一緒に食事をすることは今は無い。準備や片づけにおいては利用者によってだが積極的に楽しみながらお手伝いいただいている。	3食とも職員が、買出し、メニュー作成、調理まで分担して行い、時にはもやしのひげ取りなどを利用者も手伝って家庭的な雰囲気の中で共に調理と食事を楽しんでいる。外食は中止している状況の中で、ハンバーガーなどのファストフードを楽しんだり、ちらし寿司やすき焼きなどのイベント食も積極的に取り入れ食料品の値上げの中で工夫しながら食の楽しみを創出している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量、水分摂取量などしっかりと記録し職員全体で把握している制限されている方については厳守し健康維持に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後には毎回歯磨きやうがいを行いまた必要であれば訪問歯科診療に来てもらい口腔ケアに努めている。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導の声掛けは全員に行う支援が必要な方には適切に行いトイレにての排泄を行うよう心がけている。	日中は、自立している方も含めて、全員に声掛けを行ない、トイレでの排泄に取り組んでいる。排泄チェック表でパターンを把握して、夜間もトイレ誘導の方も多い。薬に頼らない排便を支援するため、朝食のヨーグルトや運動、マッサージなどを定期的に取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ薬に頼らず食事や運動、マッサージなど取り入れ便秘の改善に努めています。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の入浴は公平に行うため曜日など決められているが本人の意向を大事にその時その時で交換、延期など行い無理の無い気持ち良い入浴を行えるよう心がけている。	週3回を基本として、シャワー浴で入浴支援をしている。シャンプーやリンスなどは本人の好みの物を準備してもらい、入浴を楽しめるよう心掛けしている。脱衣所と洗面所がつながっているが、ヒートショックに対応するため、リビングのエアコンを利用して暑さ寒さに対応している。着替えも出来るだけ本人に選択してもらえるよう居室担当が選択肢を与えている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間はそれぞれのタイミングで行っている 起床時も自由な時間で行うため朝の食事においても本人の時間に合わせている		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬についてしっかりとマニュアルにて確認し会議を行い適切で事故の無いよう努めています。	薬剤情報は、それぞれの個別ファイルにファイリングされ、鍵のかかる棚へ保管されている。2週間分の薬を保管し、仕分けを行ない、1日分の与薬分を夜勤者がセットする一連の流れを掲示して注意喚起を行っている。管理者は、慣れた頃に起こるケアレスミスを防ぐため、マニュアルを基本とした確認作業に気を配り、誤薬を防止している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの趣味や好みを把握し提供できている 屋上や事業所周辺の散歩 ドライブ また好きな歌手の音楽を聞いたりして各々の時間を過ごせるよう努めています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響により外出に制限がある ご家族の要望などに応えるためPCR検査を活用し少しばかりではあるが外出支援を楽しんでいただくことができた。	コロナ禍ではあるが、少しでも外出支援や外気浴などが出来るよう注力し、日当たりの良い南側のベランダでのねぎの栽培、花や野菜への水やりなど、自然と触れ合う機会を創出している。下肢の筋力低下を防ぐため、運動を兼ねた階段昇りなども取り入れ、施設周辺の散歩やワクチン接種時のドライブなど、今後はドライブを増やせる様検討中である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本的にご家族の管理によるものとしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と共有し必要時にはすぐにご家族などへの電話し対応できるよう心がけている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度など常に確認し快適過ごせるよう職員全体で努めている 利用者、職員の工作など飾りつけで四季や年間イベントを感じていただけるよう努めています。	感染症対策に力を入れ、定期的に換気を行ない、一日に2回以上は手すりやテーブル、ドアノブなどを丁寧に消毒している。消毒液も玄関、トイレなど数か所に準備して職員は都度、手指の消毒を心掛けている。リビングでは、イベントの写真などを壁面に多く飾り、利用者はそれぞれの好きな場所で、塗り絵や裁縫などを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有リビングで楽しく過ごしていただけるよう気の合う方や本人の体調や環境を鑑みて席の位置や体操、レクの種類など工夫しています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には全体の利用者のバランスを考え居室を決めています。ご要望により居心地よく過ごしていただけるよう居室のスペースは自由にお使いいただいています。	居室は、安全な動線を確保しつつ、利用者の好みの物を持ち込んでもらえる様に、家族にも協力してもらっている。ベッド、エアコン、大型のクローゼットが設置されており、紙オムツなどはクローゼットに収納している。家族写真や作品などを飾り、持込の収納家具や椅子などに囲まれ、プライバシーに配慮した居室になるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者の居室や生活動線など安全に移動できるよう常に障害になるものが無いよう気を配っています。		

目標達成計画

作成日: 令和 5 年 2 月 13 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を通常通り行うことが出来なかった	外部からのアドバイスや意見を頂き運営に活用できている。	少人数でも感染対策を行い外部の方々と会議を行えるよう努める ご家族にはコロナ収束までに運営推進会議の意義や重要性を伝え丁寧にお誘いし参加いただくよう努力していく。	6ヶ月
2	2	地域の方々との交流を記録して発信する	これまで行ってきた地域の皆さんとの交流をこれまで以上に積極的に行い地域密着型事業所としての役割を強化する。	地域の皆様にはイベントや防災訓練の紹介はもちろん日常の挨拶など大切に交流を深めていくように職員全体で努めていく。	6ヶ月
3	49	日常的な外出支援が充分ではない。	利用者に窮屈さや退屈さを感じさせないようにドライブなどの外出支援を増やし楽しんで頂く。	コロナ禍の影響であっても十分な感染対策を施し少人数でもドライブなどレクを含めた外出を行い季節に合った風景を感じていただくよう支援する。	10ヶ月
4	22				ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。